# ほりえ　眞報２５号

第２５号　０８年　３月３０日　堀江　眞　発行
雲南市吉田町上山７９－１　℡ 0854・75・0236
e-メール　shin-h@i-yume.ne.jp
URL　http://www.nanushi.com/blog/
雲南市議会議員　眞さんのつぶやきで　検索を。

## 議員定数　二十四に
### 全市一区　十一月九日告示

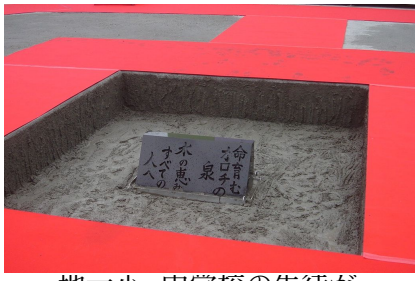
昨年3月に発足した「議員定数等検討委員会」で十回にわたり議員定数、選挙区、議員報酬などを検討してきました。定数の削減陳情が出るなど注目されてきた委員会で陳情者を招致してご意見を伺い、又自治会連合会、雲南ＪＡ、雲南市商工会、雲南社会福祉協議会の代表者から御意見を伺うなど検討してきました。定数検討委員会から議長への答申を受けて、三月二十一日議会最終日に「議員定数を二十四名とする」条例が議員提案され賛成多数で**可決成立**しました。

これで全市一区、定数二十四名が正式に決まり、選挙管理委員会で発表された**十一月九日告示**、同**十六日選挙**が決定しました。雲南市の人口約四万四千人、有権者約三万七千人とすると議員一人当たり人口約一八五〇人、有権者数で約一五〇〇人となります。また全市一区の選挙でポスター掲示場は現在約六〇〇カ所となっています。

因みに吉田町で約八〇カ所あります。箇所数の減が検討中。市長選挙も同時に執行されます。残る任期中、定例議会は六月と九月の二回です。

## 尾原ダム定礎式
### 命育む　オロチの泉

平成のオロチ退治とも言われる斐伊川・神戸川治水対策の一つ、**尾原ダム**工事の一大行事**定礎式**が挙行されました。**定礎石**はダムの基礎が無事立ち上がったことを記念しダムの永久堅固を願い中央に据えられる石のことです。コンクリートの中に埋め込まれることから再び人目に触れることはありません。今後二年間で六〇万立米のコンクリートが打設されます。

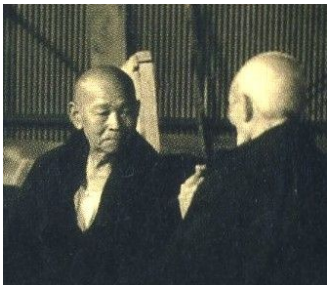



地元小・中学校の生徒が作文。「明るい未来を願って」協力して揮毫した文字が礎石に刻まれました。

## 菅谷たたら最後の村下
### 堀江要四郎翁

村下・「むらげ」と読む。たたら操業の現場責任者で技師長。代々一子相伝で技術が受け継がれてきたという。

**堀江要四郎**＝第十四代菅谷たたら表村下。明治十九年・父圓介（十三代村下）・母モンの長男として菅谷に生まれる。父圓助・祖父利助ともに村下で田部家七つの鈩を持ち回り指揮する名人だったという。**要四郎**は十二才で**炭焚**として使われ、十八才で**炭坂**として五分役に見てもらう。そして二十歳で十四代・**村下**となる。大正十年「**菅谷たたら**」が停止するまで十七年間鉄を作り続ける。昭和四十四年八十三才の時**最後の村下**として**菅谷たたら復元操業**に当たった。たたら復元は**要四郎翁**の五〇年前の記憶を頼りに進められた。操業の苦労話になると熱がこもり涙ながらに話されたという。操業の模様は**鉄の歴史博物館**で見ることができる昭和四九年六月没・八七才。



大正天皇の御守刀の原料に菅谷たたらの玉鋼が選ばれています。要四郎翁は決して自慢されませんでしたが密かな誇りでした

## 市庁舎建設検討委員会

平成十九年九月議会・市長行政報告で「市役所建設位置を決定したい」との表明を受けて、議会では特別委員会を設置して六回の審議を重ねてきました。

合併協議では木次町、三刀屋町、及び木次合同庁舎周辺の内から「新市で決定する」ことになっていました。審議の結果、県合同庁舎の活用を含めて造成工事など初期投資が少ない「合庁周辺」と決定されました。今後財政状況を十分に見極め「合併特例債」が活用できる期間内（Ｈ２６年まで）の建設を目指すことになります。着手までには市民各位への十分な説明と理解が必要です。

**編集後記**　長い冬も過ぎ去り、春・新しい年度です。しばらく御無沙汰しましたが又動き回ろうと思います。依然として地方に厳しい時代ですがとにかく明るく元気を出して行きませふ。